

# みどりの ニュースレター

21世紀 地球を、地域を、生活を、  
持続可能な豊かさに

**2**  
2009  
No.189

## 特集： 持続可能な食と農をめざして



農作業体験から「食」を身近に。(同志社大学「食育ファーム in 大原」プロジェクトより)



 **本格手折り**

このニュースレターはボランティアの手で折られ発送しています。

特定非営利活動法人

**環境市民**

Citizens Environmental Foundation - since 1992 -  
<http://www.kankyoshimin.org>

**¥200**

収益の一部は環境市民の活動資金として使わせていただきます。なお、会員には毎月無料配布しています。

本誌は古紙配合率を表すR100マークははずしています。国内大手製紙メーカーによる、これまでの古紙配合率偽装に強く抗議します。



## index

### コレため!

炭で室内空気清浄化にチャレンジ!

…02

### 特集：持続可能な食と農をめざして

…03-08

### 行事案内

…09

### とれたて! 環境市民

新スタッフ紹介 松岡 秀紀さん

もっと自転車が好きになる! サイクリングツアー 2008 初冬  
持続可能な社会づくりの要件とは? サステイナブル研究会で研究  
地域の未来を描くために! ~島本町住民環境調査事業~

…10-11

### りじこらむ no.5

軸は希望のもてるビジョン

堀 孝弘

…12

### 住まいのエコ Q&A

第5回「隙間風の対策」

…13

### 読者交流コーナー みどりのかわらばん

…14

### 1/ 環境市民

環境問題に反応する人を増やしたい!

奥津 登代子さん

…15

次号  
予告

みどりの  
ニュースレター

No.190  
2009年3月号

現在  
編集中!

特集：琵琶湖の環境 (仮)

近畿の水産、動物の宝庫、環境問題の集大成、などいろいろ  
な見方がある琵琶湖。その恩恵に預かっていながら、直接、琵琶  
湖に触れていないが故に、あまりにも琵琶湖を知らなさすぎ  
ることに気がつきました。今の琵琶湖の現状を探りながら、こ  
れからの琵琶湖にせまります。

## コレため!

コレ、ためして  
みました。

毎月エコロジカルなライフスタイル・グッズを  
スタッフが体をはって実践レポートします!

File  
41

### 炭で室内空気清浄化に チャレンジ!



窓を閉め切ったままでいると、  
部屋の空気は屋外よりも汚れて  
いってしまうのだそうです。寒い  
冬。みなさんは定期的な換気を行  
っていますか?

毎日、朝早くに仕事に出かけ  
て、夜遅くに家に帰る私はついつい窓を閉め切りがちになってし  
まいます。あまり敏感なタイプではないので特ににおいや空気  
汚染を感じたことはないのですが、それでも毎日閉め切り状態  
の部屋は少し息苦しくなってしまう。

部屋の空気を清浄化させるにはどうしたらいいのか。最近はい  
ろんな種類の消臭スプレーが売り出されていますが、使用され  
ている成分がきちんと表示されていないものもあり、どんな化  
学物質が含まれているのか不安に感じます。そこで今回は、冷  
蔵庫の消臭効果などでもよく使われる炭を使ってみることにしま  
した。選んだのは“備長炭”。ガーゼに包んで、自室と玄関な  
ど、においの気になるところに置いておきます。1日、2日、3  
日……。劇的な変化はわかりませんが、なんとなく気になるに  
おいは減ったような……。

さて、本当に備長炭は私の部屋の空気をきれいにしてくれた  
のか? それを確かめるため、使った備長炭を煮沸することに。  
空気中の匂いを吸い取った備長炭は、煮沸をすると湯気と一緒に  
それを吐き出します。湯気の匂いでその備長炭がどれほど部  
屋の空気をきれいにしてくれたのかわかるのです。効果が知り  
たくて、勢い込んで備長炭の煮沸を始めたのですが、湯気はほ  
とんど無臭。どうやら部屋に置いていた期間が2週間ほどと短く、  
それほど匂いを吸い取ってはいなかったようです。

煮沸した備長炭はしっかり乾かしてまた部屋に置いておきま  
す。たとえ備長炭が汚染物質を飽和状態になるまで吸い取った  
としても、こうして煮沸と乾燥を繰り返せば長く使うことができ  
ます。他にも、水分子やホルムアルデヒドなどの気体分子を吸  
着するゼオライトという石やオーガニックコットンのカーテンな  
ども室内空気清浄化に効果的です。

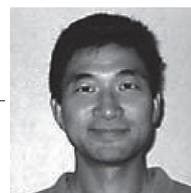
寒くて部屋に閉じこもりがちの冬こそ、きれいで心地よい室内  
環境を作ることにチャレンジしたいですね。

(文/ニュースレター編集部 安江 晃子)

# 特集：持続可能な食と農をめざして

## 食と環境を考える

文 / 西村 仁志(本会理事・環境共育事務所カラーズ・同志社大学大学院総合政策科学研究科)



私たちは毎日、食事をとっています。目の前にあるお料理をおいしくいただき、健康な生活を営むことは大事なことです。昨今、食品偽装、BSE や鳥インフルエンザなどの伝染病、農薬や違法な添加物などの混入、食料自給率など、食の話題が新聞に載らない日はないほどです。そしてお皿の上のものは、「お皿の外」の世界：地域の環境や地球環境、そして農業、漁業や流通業と密接につながっていることを認識する必要があります。今月号では私たちの暮らしに最も身近な「食」について取り上げたいと思います。

### ■人類本来の「食」

人類は地球上のさまざまな気候風土に適応して生活してきました。そしてそれぞれの土地で採れる食材で料理をつくってきました。北極圏のような厳しい気候にあっても動物や魚を仕留める狩猟採集の暮らしがあり、中央アジア、西アジアやアフリカでは家畜とともに草原を移動し、肉や乳を食材の中心とした遊牧民の暮らしがあります。そして私たちの住む日本列島では人々は古くから温帯モンスーン気候のもとで雑穀や米をつくって主食とし、豆や野菜や魚を使って汁物やおかずとする食生活を営んできました。まさに「食文化」とは、それぞれの土地の気候風土を背景にした食材の文化であり、それをおいしくいただく料理の文化、また家族や親戚、地域共同体と一緒に食べるという「共食」の文化でもあります。「食材は、自分たちの生活の周囲で採れる」のが当たり前で、まさに地産地消の生活を営んできたわけです。

### ■食のグローバル化

このように「本来、自分でつくるもの、もしくは地理的、人間関係的に近いところから調達するもの」であった「食」は、産業社会化の進展のなかで、「食品」として工業化するもの、「商品」として流通するもの、「サービス」として外部(外食や中食)化するものになってしまいました。そして食材の調達は「大量に、安価で」を求めて、世界中を流通し、調達されるようになってきました。いまや日本は年間415億ドル分(2004年、

FAO 資料)の食料を輸入する世界でも最大の食料輸入国になっており、また食料自給率もカロリーベースで40%にまで低下してしまっています。その一方で、人類全体では約8億人(そのうちアジア、オセアニア地域だけで5億人を占める。2005年、FAO 資料)が毎日食べるのができない栄養不足の状態にあります。日本を含めた一部の先進国がこのような国々の食料を輸入を通じて奪っているという構造になっています。そして農産物の輸入は「バーチャル・ウォーター」<sup>1</sup>の輸入でもあるといわれ、また「フードマイレージ」<sup>2</sup>の数値を高める大きな要因となっていきます。

### 主要先進国の食料自給率の推移

(1970年→2003年、カロリーベース、農林水産省「平成18年度食料自給率レポート」)

アメリカ	112% (1970) → 128% (2003)
フランス	104% (1970) → 122% (2003)
イギリス	46% (1970) → 70% (2003)
ドイツ	68% (1970) → 84% (2003)
日本	60% (1970) → 40% (2003)

主な先進国では、30年前に比べて自給率が上がっているにもかかわらず日本は3分の2に低下。

注釈)

※1 「バーチャル・ウォーター (=仮想水)」とは、農産物・畜産物の生産に要した水の量を、農産物・畜産物の輸出入に伴って売買されていると捉えた仮想的な数値。水源の乏しい国で輸出商品作物への水供給が優先された場合、自然資源の破壊や、その国の国民生活(とくに社会的弱者)を支える食料生産への悪影響も懸念される。

※2 「フードマイレージ」とは、「食料の量×輸送距離」で測られる、食料が食卓に届くまでにどれだけの距離を移動してきたかを示す数値。遠くから大量のものを輸送するとフードマイレージの数値は高まる。

### ■日本人の食生活の大きな変化

食料自給率の大きな低下には、日本人の食生活の急激な変化も大きくかかわっています。1960年代を境として米を主食とした食事が減り、肉類、油料理が大幅に増加して、欧米型の食事に変化してきたことです。畜産には大量の輸入飼料が必要となり、食用油もその原料の大豆や菜種などを輸入に頼っているのです。また肥満、糖尿病、高血圧、心臓病など、「メタボリック・シンドローム」や「生活習慣病」と呼ばれ

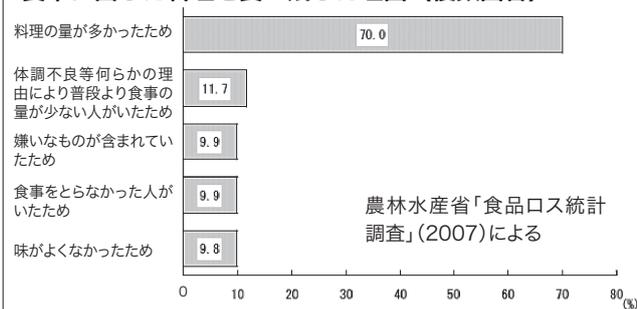
るものは、これら欧米型食生活への変化が大きいかかわっていると考えられます。また京都大大学院農学研究科教授の伏木亨先生らの研究によれば、ラーメンや揚げ物など高カロリーの油脂を多く含む食べ物に「病み付き」ようになる原因として、摂取した直後に大量の「脳内麻薬」が分泌され、快感を感じる仕組みがあることを突き止めています。子どもたちや若い世代が、肉類、油料理への「病み付きになるほどのおいしさ」を好んでいるということは、こうした習慣性と大きな関連があると考えられるわけで、注意が必要だと思います。「安い・はやい・うまい(本当はまずい!)」ファストフードの浸透も同様です。

このような海外への食料の依存、食の工業化、外部化(外食や中食)などが、心理的にも文化的にも食と農の距離をひろげてきたように思います。

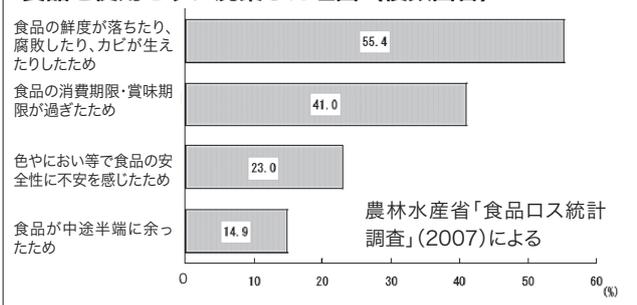
### ■食品廃棄(手つかず食品ごみ)

日本中だけではなく世界中から調達した食料なのですが、いったん食卓にのぼりながらの「食べ残し」や消費期限が切れるなどした「手つかず食品ごみ」は、一般世帯では3.8%(2007年、農林水産省「食品ロス統計調査」)、外食産業においては3.1%(2006年、同調査)にも上っています<sup>※3</sup>。食料消費の状況を示す供給エネルギー(日本に流通した1人あたりの食料)は2,588kcalに対し、摂取エネルギー(実際に摂った食事)は1,863kcalと、約700kcalもの開きがあるのです<sup>※4</sup>。これらは貴重な資源の浪費であり、また環境への負荷の観点からも、私たちのライフスタイルや流通の仕組み等の見直しが必要な課題となっています。

#### 食卓に出した料理を食べ残した理由(複数回答)



#### 食品を使用せずに廃棄した理由(複数回答)



注釈)

※3 同調査によれば食べ残し量は「結婚披露宴」では22.5%、「宴会」が15.2%、「宿泊施設」では13%と、高水準になっていることにも注目したい。

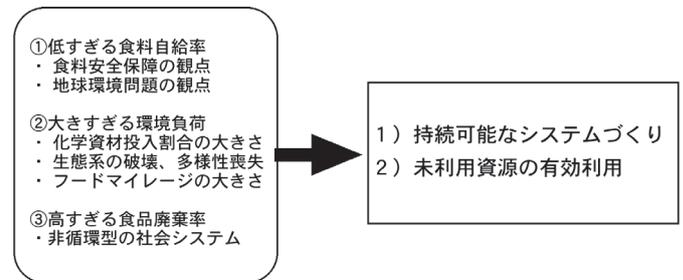
※4 供給エネルギーは「食料需給表」(2003年、農林水産省)、摂取エネルギーは「国民栄養調査」(2003年、厚生労働省)による。

### ■持続可能で、安心・安全な私たちの「食」の実現に向けて

まず、私たちの「食の上流」にある第一次産業(農業・漁業)の足腰を強め、環境面における持続可能性を高めていくことは最も重要な課題でしょう。横浜国立大学環境情報研究院教授で農政や環境政策に詳しい嘉田良平先生は、日本の農業・水産業の基本課題を図のように示しています。

#### 図 わが国農業・水産業の基本課題は何か

(嘉田良平「農業・漁業の持続可能性を問う」湯本貴和編『食卓から地球環境がみえる』より)



そして最近の食品偽装や有害物質の混入など、食にまつわる社会問題の多くは、食産業システムへの依存的な暮らしに起因するものでしょう。自分の食べているものは、いったい何なのか(何でできているのか、何が入っているのか、誰がつくっているのか……)わからない、ラベルに書いてあることを信じるしかないという、非常にリスクが高い食です。一方でこうした状況への対抗手段、そして食の持続可能性を生活者の立場から実現していく方法があります。それは顔の見える関係や知り合いの関係から、食を調達することに徐々に切り替えていくということです。

こうした間違いのないところからの調達はリスクが低く、安全・安心な食だということが出来ます。都市郊外には、まだまだ近郊農業をがんばっている農業者がいますし、協同組合で共同購入をすすめることも出来ます。生産地近くの元気な直売所もたくさん生まれてきました。お金で買う暮らしから、「自分でつくる」暮らしへの転換もいいでしょう。このように生活者が農業生産者とともに歩む姿勢を行動で示していくことが、食にかかわる諸問題解決への大きな道すじになると思います。

**地**産地消をすすめていく上でどんな課題や可能性があるのか。  
生産者、製造、流通業者、消費者それぞれの立場の方々にお話をうかがいました。

## 生産者

(文 / ニュースレター編集部 角出 貴彦)

## “ 地域からの持続可能な食と農をめざして ”



同志社大学大学院総合政策研究科 渡辺 雄人さんにきく

**「食」**は、生きていくためにはなくてはならない、とても重要なものです。しかし近年、中国産の餃子事件をはじめとした健康に害を及ぼす成分の混入事件などによって「食」の安全性が叫ばれており、消費者の農産物に対する安全・安心志向が高まっています。また危惧されている食糧自給率の低下に歯止めをかけるためにも、生産者と消費者とを結びつける「地産地消」への高まりが期待されています。今回は、観光地としても有名な京都市左京区大原にある同志社大学の学外社会実験施設「農縁館・結の家」の管理人として大原に移り住み、有機農業に取り組んでおられる、同志社大学大学院総合政策研究科の渡辺雄人さんに生産者としての視点で「食」と「農」についてうかがいました。



地元で、田植え体験を行っている

## ●有機農業で社会的においしい野菜を

「社会的においしい野菜を作りたい」という思いで移り住み、日々、有機農業にたずさわっておられる渡辺さん。現在では、壬生菜、九条ねぎなど10種類ほどの季節の野菜を作っておられるそうです。最初のころは、「ほんとうに有機農業なんてできるの？」と周囲からの懐疑的な目もあったそうです。しかし田舎では人間関係が密な分、地域の用事を通して、周囲の人とかかわる機会が多いので、一緒に行動し、会話をしていくことで、その目もやがて信頼へと変わっていったようです。ただ有機農業は、手間や技術がかかる分、コストもかかるとしても農作物の値段が高くなってしまいます。しかし農業を使わない分だけ健康面、また環境面においても土壌汚染を引き起こさないという環境にやさしい農法です。そのことを消費者の方に理解してもらうことで「社会にとっておいしい農作物」になると、渡辺さんは言います。

## ●顔が見え、話のできる関係へ

大原では、約10年前から「大原農業クラブ」が毎週日曜日に朝市を開いています。新鮮野菜がならんでいるのが近郊の都市住民や観光客に評判で、毎回約1000人もの方が訪れています。渡辺さんも農場でとれたばかりの季節の野菜や自家製のかぶの

ぬか漬けを販売しており、「自分で育てた野菜を、食べる人に直接届けるのは、何よりもうれしい」そうです。また消費者にとっても対面販売により、「顔が見え、話ができる」関係になり、「食」に対しての安心感・信頼感が得られています。また昨年5月には、常設の販売所もつくるために地元の農家が「株式会社大原アグリビジネス21」を設立し、「里の駅・大原」をオープンさせました。こちらの方も好評で、延べ83軒が出品する野菜は午前中ほとんど売れることもあるそうです。

## ●輪の広がりが持続可能な食と農をつくる

そんな大原の地でも現在は、少子高齢化が進み、兼業農家がほとんどで後継者不足や農地の遊地化が課題となっています。ただ渡辺さんの周りでは、同年代の若い世代で現在4軒の農家が新たに就農し、徐々にその輪も広がっているようです。今後は、里の駅などの施設を通して利益の出る農業にすることで、「もっとその輪が広がっていくようにしたい」ということだそうです。また農業にかかわり生活することで「自分の手で作ったものを食べて生きている」ということを実感できるそうです。そんな渡辺さんのまなざしと豊かな自然に囲まれた大原の地からは「食」の原点と持続可能な「食」と「農」をめざして、つきすすんでいく力の可能性を感じました。

## 「農家のグループ化による新しい流通、消費者の選択がカギ」

## &gt;&gt;&gt; イズミヤ



食品商品部 農産部 木下 秀裕さん、  
エコロジー推進部 三藤 和子さんにきく

スーパーとして地産地消に取り組んでいるイズミヤ。組織全体として取り組んでいくうえでの課題は何か。また可能性についてお話をうかがいました。



左が食品商品部 農産部 木下秀裕さん、  
右がエコロジー推進部 三藤 和子さん

## ●農家の店内直売で進む地産地消

個人商店と違い、何店舗も抱えるスーパーが地産地消に取り組むのは難しいのではと思っていましたが、「地域別の仕入(バイイング)」や「農家による店内直売」などの手法によって地場野菜の取り扱いが増えているそうです。特に農地が多い地域、京都や奈良、滋賀、和歌山では盛ん。「地場野菜は新鮮で、安いことが多く、お客さんにも魅力です。イズミヤとしては、これがお客さんの来店動機になればと思い、取り組みを進めています」。農家にとっては、市場以外の販路が得られるため、まさに Win-Win な話です。

消費者としてはどんどんやってほしいと思いますが、「安定供給」が重要なスーパーとしては、「商品があったりなかったりという気まぐれな商売はスーパーには許されません。また、品目が同じものばかりに片寄せと売場として成り立たない、といった問題もでてきます」と対応の難しさも教えてくれました。

もうひとつの課題は「安全面での保証」。農家の方が個人で持って来られた場合、自己申告だけでは不安が残ります。こうした課題を克服するため、「何件かの農家でグループをつくって、供給調整や安全確保をしていただいた上で提案していただけると、スーパー側は取り扱いやすくなると思います」と今後の可能性について指摘されました。

## ●消費者が選ぶことでスーパーは変わる

「安定供給」は大事ですが、これを求めすぎたことが地産地消から離れていった一因でもあるのではないのでしょうか。例えば、冬は売り場にトマトがなかったり、夏はトマトが多かったりしてもいいのでは? 「お客様のニーズが見えなければ、スーパー側から動くのは難しいですね。ただ、野菜の匂や形が少し変な野菜への理解は昔に比べると随分変わってきているように感じています」。改めて、グリーンコンシューマーとして、商品を選ぶことの大切さを確信しました。

## ●「農」のある地域づくり

イズミヤでは2008年6月に、大阪府と都市農業の推進に関する共同宣言を行い、大阪の農産物の常設販売コーナーを2店舗に設置しました。今後は、大阪の農業を推進するための担い手支援などを行っていく予定です。面白いのは、イズミヤOBが中心となって遊休農地での野菜づくりをはじめていること。ゆくゆくは、開墾地や参加者を増やし、育てた野菜を店頭へ……と夢は膨らみます。今後は、消費者を農地に招待するエコツアーも企画されるそうです。

農家、OB、社員、そして消費者をも巻き込んだ人の交流。将来的には、「農」のある豊かな地域づくりの拠点になっていくのではないかと、そんな期待が膨らみました。

●イズミヤ <http://www.izumiya.co.jp/>

近畿を中心に全国87店舗を展開。環境市民の法人会員。

## “生産者、消費者との密なコミュニケーションがカギ”

### >>> 山田製油



代表取締役 山田 康一さんにきく



山田製油 代表取締役  
山田康一さん

**国**産がほとんど、と多くの方が思っているようですが、99.9%が輸入されているごま。毎年約15万トンが輸入され、国産は約100トンしかありません。自給率が低い理由、地産地消を広げる秘訣は何か、お話をうかがいました。

#### ●つくられた手間

国内のごま栽培が減ったのは、「もうからない、手間がかかる、といったイメージが農家に広がってしまったからではないか」と山田さん。収益は、米の10分の1。1反\*から約60から90kgとれますが、数品種の栽培で収益を求めようになった今、ごま栽培だけでは食べていけません。

「でも、手間がかかるというのはちょっと違います。中間の流通業者が『消費者は色が白く、粒が揃っているものを求めている』と思い込んで、その結果、農家の手間が増えているんです」。数百万円もの選別機でごま油にする原料まで、味に何ら変わらないごまを選別する。「昔はバイヤーも現場を見ていましたが、今は人不足などを理由に現場をあまり見ず、お客さんが本当に何を求めているのかが分かっていない」と明かします。その結果減っていく国産品。そしてそんなことになっているとは知らない消費者が国産品がないと嘆いているとは。

#### ●コミュニケーションが大事

山田さんは京都、長崎、鹿児島、新潟で農家に依頼し、ごまを無農薬栽培しています。栽培農家を見つけた手がかりは口コミ。各地で自ら講習会も開き、栽培農家や現地でリーダーになってくれそうな人を

探したり、栽培ノウハウを集めたマニュアルも作成しています。それでも「訪問をするなどために連絡をとらないと単に『つくってくれ』ではだめ」。最近は、一反あたりいくらかで契約し、例えば、5月から8月に栽培したごまは山田さんが購入、その後の作物は購入先を紹介するなど、収入を安定させる試みもはじめました。

各地の販売には社員が交代で出かけ、消費者と直接コミュニケーションをとり、商品への反応を確認しています。こうしたごまを取り巻く人たちとの密なコミュニケーションが新しいアイデアを生み出す力になっています。

#### ●中山間地域は宝の山

今、製油工場のある京都府日吉町では農家に油かすを使って野菜をつくってもらっています。「野菜はピクルスにしようと思って。少々形がへんでもカットするからいいし、雇用をつくって若い人に『仕事になる』って思ってもらわないとね。やっぱり日本は中小企業、中小自治体が元気でないと！」。

市内から車で40分ほどの中山間地域も、地産地消の流れの中では豊かな自然、知恵の豊富な高齢者に恵まれた宝の山。地産地消が描く、豊かな暮らしがみえました。

※1反は約991平方メートル

●山田製油 <http://www.henko.co.jp/>

添加物を使わず、昔ながらの压榨絞りでごま油を作り続けている。  
環境市民発行の書籍「大好き京都 環境市民の遊びかた 暮らしかた」でも紹介している。

## “ 買い物から生産者、流通者を応援する ”



環境市民会員 北村 ますみさんにきく

「食」と「買う」は、切っても切り離せない関係にあります。味や値段、手軽さ……など、食材を買うポイントは人それぞれ。「地産地消」も重要なポイントのひとつです。地域で生産されたものを買うことで、私たちの周りで頑張っている生産者や流通者を応援することになります。また、輸送距離も短いので環境への負荷も小さくなります。そこで、今回は消費者がどのような思いで日々、買い物をしているのかについて30数年前から生協で共同購入をしている環境市民会員の北村ますみさんにうかがいました。



### ●生産者の顔が見える安心感

生協では、商品のほとんどに生産地が記されています。「地産地消という考え方から、できるだけ近い地域のものを購入するようにしています」。生協では生産者との交流も盛んです。農業・畜産業体験ができるプログラムがあり、北村さんご自身は牧場の乳しぼりへの参加経験があるそう。

「商品の中には、生産者の顔写真つきのものや感想を生産者へ届けるカードがあります。実際にメッセージも送ったこともあるんですよ。やっぱり作っている人の顔や思いが分かる食べ物は安心して口にすることができますね」。

### ●消費者の声から地産地消をすすめる

「今は季節に関係なく何でも手に入るようになりました。今の若い人たちは小さいころからそういう環境

にいるので旬が分かりにくくなっているように思います」。「旬」も北村さんの買い物の重要なポイントであり、旬に外れるものは購入しないように心がけておられます。

「消費者としては安く手に入れたいと思うのは当然です。しかし、それだと国産のものは難しい。時間をかけて作ったものを、それに見合った値段で購入するという意識を持った消費者が増えていくといいですね」。

消費者の声が周りの人々の食や農への意識を変えていくことにもつながります。北村さんがよく利用する昔ながらの八百屋さんでは、以前は生産地が記されていることが少なかったそう。「そのため、お店の方に生産地を伺うことも多かったのです。すると、最近ではその八百屋さんでも生産地を明記するようになったんですよ」。

持続可能な食と農を実現していくためには、消費者だけでなく、生産者、流通者が相乗効果を与え合いながら進めていくことが重要であると改めて実感しました。

### グリーンコンシューマーの手引き本!

## 『だいすき京都 環境市民の遊びかた 暮らしかた』



2006年1月発行、1200円(税込)

「地域でがんばっている生産者が作ったものを買いたい」、「安全・安心な食べ物を提供しているお店で買いたい」その思いが持続可能な食と農を支えることとなります。けれど「どんなお店があるの?」「商品の選び方のポイントは?」と疑問もたくさん。

そんな方におすすめなのが、「環境市民の遊びかた 暮らしかた」です。グリーンコンシューマーとしてどんな暮らしができるかを提案する本で、環境市民の多くのボランティアの手によってできあがりしました。今回、特に注目したいのは第2章「京のお店」。この章では安心できる商品を売る京都のお店情報や野菜やパン、ケーキ、漬物などの選び方のポイントが書かれています。このポイントは京都だけでなく、私たちの住んでいる地域にも応用できるものです。この本を読むとお店選びの新たな選択肢が広がることでしょう。

《購入希望者は京都事務局まで》



**環境市民** TEL)075-211-3521 FAX)075-211-3531  
 IP電話) 050-3581-7492  
 E-mail) life@kankyoshimin.org  
 KYOTO http://www.kankyoshimin.org/

## ●1Dayボランティアデー「自転車の選び方」

毎月エコな話題をおしゃべりしながら、ニュースレター発送作業をしています。今月26日(木)のトークテーマは「自転車の選び方」。新生活をひかえて新しい自転車を購入予定の方も多はず。自転車に乗ることが楽しくなり、長く大事にしたいくなるような自転車選びのコツをご紹介します。

と き : 2月25日(水) 午前11:00から午後7:00頃まで  
 2月26日(木) 午後2:00から7:00頃まで

と ころ : 環境市民 京都事務局

備 考 : 予定時間を過ぎて来られる場合はあらかじめご一報ください。講演ではありませんので、作業をしながら話をきいたり話したりする状況になることをご了承ください。

次回発送日... 3月30日(月) 午前11:00から午後7:00頃まで  
 3月31日(火) 午後2:00から7:00頃まで

**環境市民** TEL・FAX)052-521-0095  
**東海事務所** IP電話) 050-3604-6182  
 TŌKAI E-mail) tokai@kankyoshimin.org  
 http://www.kankyoshimin.org/tokai

今月の行事はありません。

**環境市民** TEL)077-522-5837  
**滋賀事務所** E-mail) cefshiga@kankyoshimin.org  
 SHIGA

## ●おおつ市民環境塾報告会への参加

おおつ環境フォーラムが市民向けの環境塾を行ってきたので、その報告会と市民への環境啓発を行います。

と き : 2月21日(土) 午後1:00から5:00まで

と ころ : 龍谷大学瀬田学舎7号館

主 催 : 大津環境フォーラム

共 催 : 滋賀事務所

## 旬のプチメモ

あなたの心に季節の窓を。  
 旬の話題と暮らし方のヒントを  
 お届けします。

### vol.44 日本酒

冬の寒さを利用して造るものに日本酒があります。京都・伏見、広島・西条と並び、3大銘醸地の兵庫・灘の酒蔵では、10月にその冬使う最初の米を蒸す甑(こしぎ)初めの作業を皮切りに、仕込みを終える3月まで毎日作業が行われます。灘では宮水という酒蔵近辺の地下水が使われるように、地域の水質によって酒に特有の味が出るそうです。米が伝来した弥生時代からある日本酒ですが、当初は神の力によるものと信じられ、仕込みの期間中、酒作りの無事を祈って何度も参拝する伝統が現代にも息づいています。そう思うと、口に入れるのが感慨深くなりますね。

(ニュースレター編集部 田麦 誠)



## ミーティングカレンダー

●いずれも京都事務所で行います。ぜひご参加ください。

5日(木) 自然住宅プロジェクトミーティング

午後6:00から8:00

## 新会員の方々・寄付

12月13日から1月13日

### 新会員

小川 潤 柳瀬 要  
 川口 美智子

### 寄付

北野 麻里子 堀 孝弘  
 寺脇 俊 第2回ボランティア  
 市民活動フェスタ

(五十音順敬称略) ありがとうございました!

### 新入会員インタビュー:

川口 美智子(かわぐち・みちこ)さん / (和歌山市) 12月10日入会

環境を考える会リベラルの代表や和歌山県地球温暖化防止活動推進センターの理事などを務めています。京都議定書発効の地、京都の団体として活躍してほしいと思っています。

## ややこしい環境問題もあやしい主張もこの本を読んでスッキリ! 環境問題の「もうちょっと知りたい」に 応えるハンドブック



環境情報が氾濫してる今、問題の本質を見極めたい方にぴったりです。

### < 内容 >

地球温暖化って、人間の活動がもたらしたのではないという説もあるけれど、ほんとなの? / 原発は、地球温暖化防止の切り札なの? / これ以上、エネルギーの削減はできないの? 他



サイズ A5版 / 94ページ

価 格 □環境市民会員の場合(送料別途 80円) 1部: 500円

□非会員の場合(送料込み(税込み))

1部: 710円 2部: 1,340円 3部: 2,000円  
 (送料なしの価格(税込み) 1部: 630円)

申込み お名前、ご住所、電話番号、メールアドレスを明記の上、電話かFAX、メールでお申し込みください。振込は銀行口座か郵便局になります。

新スタッフ  
紹介



## 新スタッフ紹介 まつおか ひでき 松岡 秀紀さん

「環境市民に来られるみなさんは活動的な方が多いですよね！」そう語るのは環境市民新スタッフ、松岡秀紀さん。かつて自治体職員として働いていたときにCSRの考えに出会い、もっと多くの人にCSRを広めていきたいという思いから4年前に退職。その後は国際協力NGOや職業訓練学校で勤務し、2008年9月からは経理担当として週2日ほど環境市民で働いています。「環境市民は以前から知っていましたが、昨年7月に知人から環境市民のセミナー案内をもらったことがきっかけでウェブサイトをしつぱりにチェックしたところ、新スタッフ募集を見つけました」と松岡さん。

金庫の管理や入金・入金伝票の確認、パソコンでの帳簿づけ、銀行への通帳記帳などが主なお仕事。「経理の仕事はこれまで経験したことのなかった未知の分野なので、いろいろなことを吸収していきたいです」。そう語る松岡さんは、年度末の決算に向けてこれからはより忙しい日々を送ることになりそうです。

環境市民のほかにも、パソコン教室の先生、環境マネジ

メントシステム、ISOのコンサルタントとして働いています。なんと、昨年の9月には大学院の修士課程を修了されたそう。活動全ての根底に流れているのはやはり“CSR”。松岡さんの揺るぎない信念が感じられます。

ある理事の方のお話によると、松岡さんは“とても味わい深い方”。趣味は、ヤフーオークションやAmazonへの本の出品で、環境市民への就職のきっかけとなった知人と知り合う前にAmazonを通してCSR関係の本を送ったことがあるという偶然も！魅力いっぱいの松岡さんに会いに、ぜひ事務所へお越しください。

(文/ニュースレター編集部 久保 友美)



イベント  
報告



## もっと自転車が好きになる！ サイクリングツアー 2008 初冬



京都から大阪までクルマに煩わされずに自転車で走れるか？ 京都のサイクリストなら誰でも考えそうな事だが、大阪でもまた同じらしい。4年前に発行された「枚方自転車MAP」(のろ〜なくらぶ発行)では、大阪市内から「北河内サイクルライン」を辿って京都に向かいたくとも牧野付近で途切れ、大型車両の通行が多い府道13号線は極めて危険ゆえ「無理」と断定していた。しかし辿る道は他にもある。今回のツアーは冒頭の命題を背負った旅(?)でもあったのだ。

12月13日、好天・温暖に恵まれた土曜朝、東本願寺前からスタート。11人参加。西国街道を抜け、久世橋から桂川サイクリングコースを辿って南下。京阪八幡市駅前で大阪からの参加者2人合流。橋本の旧宿場町を抜け、楠葉中

之芝2丁目で府道13号線を横断すれば河川敷道路への入口。ここから楠葉ゴルフ場の脇を抜ける舗装路は前述の自転車MAPでは未掲載区間だが、クルマ(工事用車両を除く)が入らず、サイクリストや散策者も意外に少ない。ゴルフ場や草野球グラウンド、生い茂る背の高い草、幻想的な雰囲気漂う樹林、路上の落ち葉、といった光景が次々現れる10数kmは参加者一同からも好評。お薦めコースに認定したい。樹林から出ると目前にひらかた水辺公園。ここで北河内サイクルラインにつながるから、さらに辿れば大阪市内まで走行可能。実際にこの日、数人がここで離脱して大阪市内まで走り、京橋から輪行で京都へ戻った、とのこと。

今回のコースはほとんど平坦な舗装路だったから、初心者でもシンドイ思いをせずに走れるだろう。ただし冒頭の命題に戻ると、クルマがビュンビュン通行する府道13号線を横断する楠葉中之芝2丁目には信号があっても横断歩道がないし、御幸橋は幅員が狭い上に慢性クルマ渋滞状態ゆえ車道走行はお薦めしかねる、という問題はある。河川敷舗装路が八幡の方向にもう2kmほど延び、御幸橋付近で桂川木津川サイクリングコースとつながれば京都〜大阪間の自転車走行がグッと安全になるのだが、現時点ではとりあえず上記2か所の改善を要望しておきたい。

道の向こうへ出かけよう……これがサイクリストの心なのだ。

(文/自転車チームちゃり民 辻野 隆雄)



## 持続可能な社会づくりの要件とは？ サステイナブル研究会で研究中

持続可能で豊かな地域社会を創るためには、住民参画と各主体の対等なパートナーシップのもと、環境保全はもちろん、地域経済の活性化や社会的公正の実現もカバーする総合的な取り組みと、それを実現するための社会システムの構築が求められます。

「サステイナブル研究会（正式名称：日本における持続可能で豊かな地域社会の総合的ビジョンと、具体的な自治体環境戦略モデルの提案・調査・研究事業）」では、このような取り組みを可能とするため、過去7回にわたって実施してきた「日本の環境首都コンテスト」の分析や、持続可能な地域社会づくりに関する国内外の知見の研究を進めています。

具体的には、2008年には10回の会議を開催し、環境首都コンテストから見てきた日本の自治体の特徴や課題・先進事例の共有化と、ドイツの環境首都の取り組みをはじめとする、ヨーロッパにおける持続可能な地域社会づくりや持続可能性指標などに関する知見の共有化を行い、持続可能な地域社会づくりに求められる要件などについて議論してきました。今後は、引き続きこのような学習会を進めるとともに、実際にパートナーとなる自治体を公募・選定し、持続可能な地域社会に向けてどのような課題や可能性があるのかを協働

で調査・研究していく予定です。

また、この研究を進めるにあたっては、みどりのニューズレター2009年1月号で特集された「環境首都をめざす自治体 全国フォーラム in 飯田」での共同提案（戦略的パートナーシップ・ネットワーク、人材の戦略的流動化）とのリンクも図っていきたく考えています。

なお、メンバーは、専門家（学識者等）、環境首都コンテスト全国ネットワークメンバー、環境政策を専攻する大学生及び大学院生で構成しています。

【詳細 URL :

<http://eco-capital.net/modules/project/proposal/>】

（文 / 未来の子（環境首都コンテスト全国ネットワーク中国地区担当） 共同代表 / 本会会員 大西 康史）



白熱するディスカッション



## 地域の未来を描くために！ ～島本町住民環境調査事業～

環境市民では、大阪府島本町で2008年5月から月に1回実施している、住民参画での「地域環境調査事業」の企画運営を行っています。この事業は、島本町が将来予定している住民参画による環境基本計画策定にむけて、地域の基礎データ収集と住民同士、住民と行政の関係づくりを目的として実施されているものです。

調査事業では、町内の植物や水について、企業の環境の取り組みについても調査しました。また行事でたごみを集めて、どんなごみがどれくらいでているかという調査も行いました。住民自身が体験を通じて町内の現状や問題を知るとともに新たな魅力にも触れ、これからの町の姿を語り合ってきました。

各回、住民の関心にそって、扱うテーマや内容、構成を参加者有志と相談しながらつくりあげたことは、この事業の特徴のひとつです。回によっては住民自身が講師となって、地域の魅力を他の参加者に伝えました。

参加者は、事業を通じて、まちの現状への認識が一つではないこと、認識に違いはあっても話し合うことでその背景を理解しあえることや、それらを解決・改善していくための手順の重要性などに気づいています。行政や住民という立場を越えて、「一緒に何かやっていけるかもしれない」という

感想を持つ人もできました。今では、具体的に計画づくりや実践の行動を起こしたくてウズウズしている人達もいます。

来る2月7日（土）には、一年間の成果をまとめた調査報告会が開催されます。他の住民のみなさんと町民の将来を語り合えるような意見交換の場も用意されています。

（文 / 事務局スタッフ 内田 香奈）



イベントで出たごみを調査している様子

### 見たで！聞いたで！ エコしまもと再発見～住民環境調査報告会

と き：2月7日（土）

午後2:00から4:30（開場午後1:30）

と ころ：島本町ふれあいセンター（ケリヤホール）  
（島本町桜井3丁目4-1）

参加費：無料

申込み：島本町環境課 電話 075-962-2863

# 堀 孝弘

## 軸は希望のもてるビジョン

### ●市民の思いを仕組みに

時々、堀のことを創設期のオリジナルメンバーと思ってらっしゃる人がいますが、堀が環境市民の事務所を最初に訪ねたのは設立から3か月経った1992年10月。それまで、おもに京都近辺の自然保護系の団体の活動に参加していました。また牛乳パックリサイクルの仕組みづくりなどにも関わっていました。そこで感じていた疑問は「特定の貴重な自然を守っても、目の前の田んぼは当たり前のようになくなる」「リサイクルを盛んにしても、それ以上に使い捨て容器が増えていく」でした。「自然だけ」「リサイクルだけ」が多いなか、現代表理事の枚本さんから、自然、暮らし、経済、教育など、環境を総合的にとらえた環境市民のビジョンを聞いた時、「これだ」と思ったわけです。

### ●思いを実現するプロジェクトづくり

環境市民では自治体などからの委託事業の推進や、将来を見据えたプロジェクト企画などに勤しんでいます。日頃から言っていることではありますが、会員あつての団体、ボランティアあつての活動です。しかし、会員・ボランティアがただの「お客様」であつては、団体の力は弱くなっていきます。会員・ボランティアの多くが、環境市民の活動を「自己実現」の一部として位置づけて、応援と参加をしてくれるようになってこそ、団体の力が強くなると考えます。

もちろん、そのように感じてくれる人たちが増えるよう、事務局長として努力しなければならぬわけで

す。社会的意義や先進性などを意識しつつ、会員・ボランティアの思いを「プロジェクト」として実現していく仕組みをつくりあげたいと思っています。

### ●大不況の今こそ、未来を見据えた変革のチャンス

大不況の今こそ、20～30年後の国のあり様を考え、大転換する機会だと思います。「景気回復」という名のもと、「定額給付金」や「大規模公共工事」のような、その場しのぎの対策が取り沙汰されていますが、将来にわたって効果が期待できる取り組みを戦略的に進めるべきです。

なかでも、自然エネルギーの徹底普及など、「夢」のある取り組みが必要です。それは、たとえば、民間による太陽熱温水器や太陽光発電機・風力発電機などの導入支援、自然エネルギーで発電した電力を電力会社が長期買い取りできる制度づくりの支援、省エネ製品や低燃費車の購入支援、住宅の断熱改装支援などです。本気でやれば「定額給付金」に予定されている2兆円では足りないかもしれません。しかし、短期の景気刺激だけでなく、これらの省エネなどの効果は10～20年と続きます。さらにコストダウンによる波及的な普及も期待できます。

効果は「省エネ」だけではありません。自然エネルギーの徹底普及で、30年後海外からの化石燃料輸入を大幅に減らせたとします。海外には環境性能に優れた製品を輸出すると、輸入を減らせる分、工業製品輸出が今より減っても社会は十分成り立ちます。すると国全体にゆとりが生まれ、余暇時間が増え、観光産



ほり・たかひろ……環境市民事務局長の他、京都グリーン購入ネットワーク事務局長と立命館大学講師を兼務。営業マン、生協職員、大学職員などを経験。自慢の経歴は1998年まで15年間の共働きと、2年間の専業主夫。家族は同い年の妻、昭和生まれの娘（大学生）、平成生まれの息子（高校生）、21世紀生まれの犬（雑種）

業が潤い、介護にあてる時間も増やせませす。また、自然エネルギーは中山間地にも産業を創出し、農業の下支えにもなり食料自給率の向上にもつながります。

本当はまだまだ書きたいのですが、この辺にしておきます。環境市民のビジョンである「持続可能で豊かな社会」を、自分なりに言い換えると「遊んで暮らせるエコ社会」。いずれ別の機会にしっかり紹介させてもらいたいと思いますが、社会の多くの人が将来への不安を感じている今こそ、必要なのは夢のあるビジョンだと思います。

### ●山、乗り物、そして犬

山登りも大好きですが、本当は乗り物が好きで、自動車・オートバイ・自転車・飛行機・列車、いずれも好きです。オートバイは、現在カーボンオフ期間中。いずれシニアになれば、また乗ることがあるかもしれません。それまでに胸を張って乗れる究極のエコバイクを国内メーカーに作らせたいものです。

他、堀と言えば犬好き。しかも雑種しか飼ったことがないのが自慢。このあたりについては、いずれまた。

## #5 第5回は、

### 「隙間風の対策」

#### A. お答えします！

隙間風の対策法ですがいくつかのケースがあります。それぞれについてお答えします。

#### ●窓廻りからの対策

まず、木造家屋で一番隙間風が吹き込むのは窓からで、アルミサッシと木製建具とのケースがあります。

アルミサッシのケースで吹き込むのは建て付けの不具合か建具のゆがみが原因と考えられます。これらは建具の側面にプラスドライバーでゆがみ調整できるようになっていますので解決できます。ただし、昭和中期以前のモノになるとできないモノがほとんどです。その場合は、枠と建具の隙間にモヘア状の隙間充填材を取り付けるか、雨戸がなければ外側から建具枠回りをカバーし隙間風が入り込まないようにする方法があります。

木製建具のケースではいろいろな隙間処置法があります。木材の隙間の部分には薄く削いだ木材を挟み込み、その部分を隠すために細長い木材を打ち付けることで解決できます。窓ガラスの隙間には、一旦、押縁を外してシリコンシーリングを充填して押縁を取り付けることで解決します。枠と建具の隙間にはモルトプレーンというスポンジに粘着剤を貼り付けた隙間補充材や前述のモヘア状の隙間充填材を取り付けます。また、召し合わせと呼ばれる建具同士が重なる部分には隙間に風が入り込まないようにモヘア状のものを充填します。木製建具の場合はプラスドライバーで調整ができませんが、削ったり打ち付け足したりと木ならではの調整が比較的楽にできます。ただし、手先が器用で腕前に自信がある方以外は専門職の建具屋さんや大工さんをお願いした方がよいでしょう。

さらに、インナーサッシと呼ばれる既存の建具室内側にもうひとつサッシを取り付ける方法があります。本来は騒音対策や防音のためのものですが、結露防止や断熱性能も高まります。取り付け工事自体は小一時間もあれば取りつくほど簡単です。欠点としては窓の開閉が二重になり手間取ることが挙げられます。

#### ●床壁天井からの対策

窓廻りからの隙間風対策についていくつか述べましたが、京都の町屋などにみられる土壁の木造家屋の場合は壁と柱や床下からの隙間風があると思います。夏

Q. うちの家、昔ながらの木造家屋で冬になると部屋中に隙間風が吹き込みとても寒いのですが、何か良い隙間風の対策法はありませんか？

の生活を旨とした造りなので冬場は家の中にいながらも白い息を吐きながら寝起きをしなければなりません。私自身も町屋での生活経験があり現在も町屋を仕事場としていますが、縮こまったままでアクティブになれず困っています。余分に一枚着こみ気持ちで乗り越えるのが環境的にはよい解決方法とは分かってはいますが、なかなか……乗り越えられません。建築工事での対処法としても隙間は隙間として存在させておくのが土壁の木造家屋としては正しいあり方で「もう一枚羽織って気持ちで乗り越えてください」とお答えすべきですがそういうわけにもまいりませんので解決法を考えてみます。

まず、柱と壁の隙間をコーキング材などのパテ状ものや缶スプレーの隙間充填剤などで埋める方法があります。その場合は室内側からではなく外部側から行うようにします。室内側から行くと、外部側に生じた隙間に水蒸気や結露の水滴が溜まり腐食の原因となるためです。細い木材を打ち付けて隙間を塞ぐ場合も同様外部側からとします。さらに言えば、外部外壁全体を杉皮の断熱材などの自然素材系の断熱材で外断熱を施しながら隙間をなくし覆ってしまうのが最も効果的です。冷暖房などの効率も非常に良くなりエネルギーの効率が高まります。

床下からの隙間風に対しては、畳敷きの場合などは一旦畳を上げて透湿防水シートを敷きこみます。透湿性のないビニールシートなどを使用しますとカビの発生の原因となりますので注意しましょう。板貼りの場合は床下から断熱材を充填します。この場合も吹きつけのウレタン発泡剤などは効果が上がりすぎ思わぬところにカビの発生が起こりますので専門家と相談しながら行ってください。

以上いくつかのケースについて述べてきましたが、エネルギー消費低減を軸とした環境的な視点からは隙間の極めて少ない高气密高断熱の木造家屋がよいとされています。新築の場合は高气密高断熱とし、既存のものはお答えしたような方法で可能な限り長く住み続けられるように工夫されてはいかがでしょう。

(文/自然住宅プロジェクト 岡本 成貴)



#### 生活者の視点

サッシまわりの隙間風は、厚手の長いカーテンを吊るすと和らぎます。また隙間風が吹き込みやすい壁ぎわに、本棚やタンスなど面積の大きな家具を置いてみてはいかがでしょう。

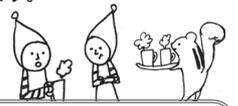
(文/自然住宅プロジェクト わく あいこ)



# みどりのかわらばん

読者×読者、読者×環境市民をつなぐコーナーです。  
ご意見・ご感想など、お待ちしております。

編集/ニュースレター編集部 風岡 宗人



## みどりの特派員便り

全国で活躍する環境市民の会員さんが、「みどりの特派員」として地域の活動や思いを紹介します。この記事がきっかけとなり、新たな環境市民ネットワークの創出ができればいいな。

### 大藤 良昭さん (野洲市環境経済部環境課長補佐)

### 市民と行政の協働で、環境に配慮した 持続可能なまちづくりに取り組もう!

市民との協働の意味も十分に理解していなかった2005年9月、環境基本計画づくりを環境市民の支援を受けて取り組んだのがきっかけで、多くの人と共に地域の環境づくりに取り組むことになりました。

計画(プロジェクト)策定の初期は、構成メンバーのコミュニケーションがうまく行かず、トラブル多発で困った

時期もありました。しかし今はそれぞれの想いと共通の目標が明らかになったことで、計画の推進組織も立ち上がり多くの人と共に日々様々な活動に取り組んでいます。また、他の行政機関や企業との連携も徐々に深まり、活動の推進力になっています。

特にびわ湖岸にヨシ帯を再生する活動は、多くの市民団体や自治会、行

政機関、企業の参加が得られたことで、多様な人々との連携が可能になりました。他の活動も同様になるよう、今後も頑張っていきたいと思っています。



約170人が参加したヨシ植えイベント  
(2008年12月13日)

## インフォ@エコ

環境に関するオススメの本、映画、音楽などをご紹介します。

オススメ!

### 『子どもの味覚を育てる ピュイゼ・メソッドのすべて』

ジャック・ピュイゼ 著、三國 清三 監修、鳥取 絹子 訳

2004年9月 紀伊国屋書店 (2,200円+税)



現在、食べ物の好き嫌いが激しく、味の違いがわからない味覚音痴の子どもたちが増えているという。

本書は子どもが、食を通じて豊かで幅広い感覚と、溢れる情報を主体的に取捨選択できる力を育むことを目的として書かれたものだ。

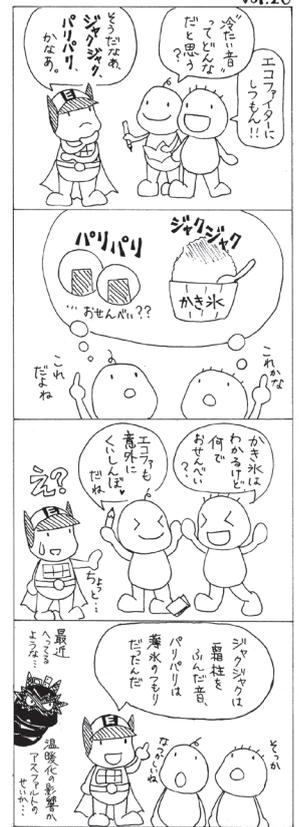
著者のジャック・ピュイゼは、1974年にフランスで、子どもたちの味覚が大人よりも繊細であることを発見した。そして味覚を表現する力の乏しさを懸念し、頭と身体を使った「味覚を目覚めさせる授業」を行っている。本書は、この「味覚を目覚めさせる授業」のガイドブックである。授業の実際から、家庭

での応用、味覚を教育することが人間を豊かに育てる理由がわかりやすくまとめられている。味覚を学ぶことで、食生活の好き嫌いを減らすだけでなく、言葉による表現力を身につけることにもつながる。味覚がコミュニケーションの重要なファクターになり、隣人と味覚の違いを分かち合うことで、その人や異文化をより理解することができるようになる。好きな食べ物が好きなときに手に入る都市の子どもに、土地と食べ物のつながりを教える大切さも説かれている。

本書を読んだ大人が、子どもたちを食べ物の「取りつかれた」人間にするのではなく、すべての「文化」にオープンな人間として育てる責任があることを感じてほしい。  
(文/エコ地蔵盆ボランティアスタッフ 壺井 祐三子)

## SKIPの! エコマイク劇場

vol.26



環境共育チームSKIPの環境プログラム「エコマイクショー」をモチーフとしています。

イラスト:かわみん

## みどりのわ

つづがる・ひろがる

ニュースレターモニター、また読者の方からのご意見をご紹介します。

近い将来、大都市から農山村への産業や人口が移動する「アーバン・エクソダス」が始まるのではないかと考えています。16世紀のイギリスで見られ、特権的な大都市が衰退し、自由な農村に工業が移ったという現象です。事実、私が住む奈良県山間部に最近、都会から多くの芸術家や工芸家が移り住んできています。1月

号の「環境首都をめざす自治体……」の記事は、そんな胎動が出生寸前であることを感じさせてくれました。と同時にそれらをうまく伝えられず、大都市ばかりを見ているメディアの将来が不安でなりません。

(神野 武美さん/朝日新聞吉野支局記者/本会員)



●ご意見・ご感想宛先  
メール・FAX・郵送で  
お送りください

【E-mail】newsletter@  
kankyoshimin.org

【FAX】075-211-3531

【郵送】〒604-0932 京都市中  
京区寺町通二条下ル 呉波ビル3  
階 NPO法人環境市民 みどりの  
ニュースレター編集部 宛



# 環境市民

かんきょうしみんぶんのかい

★環境市民の会員を紹介します

no.44

## 奥津 登代子さん

省エネアドバイザー、京エコロジーセンターの「エコサポーター」、そして茶道の先生。多才で好奇心と向上心を忘れず生き生きとした姿が印象的な奥津さん。環境市民ではラジオ放送「環境市民のエコまちライフ」を担当する。

### もっと多くの人に環境問題に反応するアンテナを張ってほしい

#### ■「私にも伝えられるものがある」

あるきっかけで多くの人に伝える楽しさを知った奥津さん。環境市民が企画しているラジオ番組「環境市民のエコまちライフ」※<sup>1</sup>にかかわり始めて4年近くになる。ラジオ活動の傍ら、省エネアドバイザー※<sup>2</sup>として、また茶道の先生として多方面で活躍する。

環境市民にかかわる前は、環境学習施設である京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センター / 京都市伏見区）で「エコメイト」として環境教育のボランティアに携わっていた。「会社勤めを終えても社会とのかかわりを持ち続けたい」と思ったのが、ボランティアを始めたきっかけだ。時を同じくして同センターの活動が立ち上がり、既存のしがらみが少なく自由に活動できる点にひかれた奥津さんは、その「第一期生」となった。

あるとき、活発に活動するエコメイトの方々が民放ラジオ番組で取り上げられることになり、奥津さんは他のエコメイト数名とともに出演することになった。活動についていろいろと質問を受けたなかで、今でも奥津さんの記憶に残っている質問がある。「取っておきの話は何ですか」。

茶道の先生でもある奥津さんは、以前皇太子殿下が京都にいらっしゃったときにお茶をお出ししたことがある。奥津さんにとって、そのときに皇太子殿下に返していただいた笑顔は「一生の宝物」。その感動はリスナーにも響き、大きな反応が返ってくる。「私にも伝えられるものがある」。これがきっかけとなり、奥津さんは伝える楽しさを知った。

エコメイトの活動は3年間で任期満了となった。その後の活動を考えたとき、それまでに知った環境問題の知識をもっと深めたいと思ったことと、このときの感動が、



奥津さんを現在の環境市民の活動へと導いた。

#### ■ボランティア活動から広がった視点

環境市民ラジオチームの活動の魅力は、出演するゲストから関係するスタッフまで、普段の生活では出会えない人と出会えること。「大学の教授や企業関係者と直接お話しする機会が得られる」。収録の前後で聞けるお話も刺激的なのだそうだ。当初は放送に携わった経験がなかった奥津さんは、活動を通してラジオ番組の制作を学び、環境問題についても知識を深めている。

また、活動を通して物事に対する感じ方が変わったという。

シンガポールに行ったとき、街を歩いていると奥津さんのなかにひとつの疑問が浮かんだ。「たくさんの高層ビルが密集しているのに、空が広く見える」。「環境」について知ったことで、これまで見えていなかった「環境」が目に残る。「あ、電線がない」。私たちの周りにあふれる小さな「環境」やその違いにも、奥津さんのアンテナは反応し、そこからさらに新しい発見をする。こ

のエピソードから、奥津さんの「環境」をとらえるアンテナが人一倍研ぎ澄まされていることがよくわかる。

#### ■もっと多くの人に環境問題に反応するアンテナを

さまざまな活動を通してメッセージを発信する奥津さん。そこには、もっとみんなに環境問題に反応するアンテナを張ってほしいという想いがある。「もっと環境問題に反応する人が増えれば、そこから新しい動きが生まれる。そのためのきっかけづくりをしたい」。

また、「ちょっと大変なことに挑戦することを勧めたい」という。「楽しいことだけでなく、苦労があってこそ、新しい出会いがある」。その出会いを「魅知」との遭遇と呼んでいたことが印象的だ。奥津さんにとって、ラジオ制作や省エネアドバイザーの活動は「ちょっと大変なこと」。でも、ひきつけて離さない魅力的な出会いがあるのだろう。活動を始めて約4年が過ぎた今でも、得るものは尽きないという。

ラジオの活動は、それを聞くリスナーへの刺激であり、奥津さん自身の知的好奇心への刺激でもある。その刺激が活動を続けるエネルギーとなり、さらにリスナーに響くメッセージになる。奥津さんの精力的に活動する姿とその発信に、社会をも刺激する大きな力を感じる。

(インタビュー / 内藤 一樹、写真 / 風岡 宗人)

※1 「環境市民のエコまちライフ」は、FM79.7「京都三条ラジオカフェ」にて、毎週月曜日午後1時から放送しています。ウェブサイトからも視聴できます。  
<http://kankyoshiminradio.seesaa.net/>

※2 「省エネアドバイザー」は、事業者等に具体的な省エネの方法をアドバイスします。家庭の省エネアドバイザーとして「京都府地球温暖化防止活動推進センター」、「省エネ普及ネット京都」、「京のアジェンダ21フォーラム」の各団体より認定を受け、商業施設、区役所などで省エネの具体的な方法などについての相談を行う活動を行います。

今日の  
ありがとう!

目立たないところでも、  
お力を貸してくださった  
方々に、感謝をこめて。

#### 【ニュースレター発送】

岩井 美由枝 / 笹野 要祐  
(五十音順敬称略)

#### 編集部 (五十音順)

有川 真理子 乾 孝史 風岡 宗人  
久保 友美 駒 ゆき香 角出 貴彦  
田麦 誠 千葉 有紀子 土屋 瑠里子  
内藤 一樹 東 広之 安江 晃子  
下司 智子 (デザイン・レイアウト)

#### 編集後記

ニュースレター編集部にお世話になること、1年と8か月。かなり遅くなってしまいましたが、今回初めてメインの担当で特集の執筆にかかわることになりました。さらに初めてのインタビューも経験させていただき、いろいろと勉強になりました。今後もこの経験を糧にして、よりいっそう編集部の活動にもたずさわってほしいと思う今日この頃です。

(ニュースレター編集部 角出 貴彦)

申し込みが  
増えてます!

会員  
限定

# みどりのニュースレターをPDF配信します

★情報検索ができる! ★場所をとらない! ★紙を使わずにすむ!



本誌「みどりのニュースレター」は会員を対象にPDFデータでも配信をしています。PDFで購読していただくと、郵送費用が削減でき、また紙や印刷による環境負荷も下げることができます。また、みなさんのお手元で場所をとらずにコンパクトにまとめることができ、必要な情報を検索したりすることもできます。  
希望される方は、右記のEメールまでご連絡ください。

申し込みメールの件名: PDF 配信希望

①お名前 ②連絡先電話番号

③配信先メールアドレス

以上を記載の上、お申し込みください。

申込アドレス: [life@kankyoshimin.org](mailto:life@kankyoshimin.org)

## ♪ラジオ番組♪

### 「環境市民のエコまちライフ」

京都三条ラジオカフェ (79.7MHz)

身近な話題から旬の話題まで環境の視点から情報発信

【放送時間: 毎週月曜午後 1:00 から 1:30 (再放送は火曜朝 7:00 から)】

インターネットでの試聴はこちら。ダウンロードもできます。

URL: <http://kankyoshiminradio.seesaa.net/>

## 環境市民に入会しよう!

環境市民は、多くのボランティアと会員の皆さんの参加によって支えられています。「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ会員になって環境市民の活動を応援してください!

### 会員特典

- 月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。
- 行事などの参加費を割引させていただきます。
- 環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。

### 会費の振込み方法

- 郵便振替振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・送金内容事項をご記入の上、「年会費+入会金」をご入金ください。  
(※シニア・学生・助成・特別助成会員は入会金不要)
- ご入金を確認後、最新のニュースレターと会員バッジ、入会記念としてポストカードをお届けします。

### 会費

種別	年会費	入会金
個人会員	4,000円	1,000円
ペア会員	6,000円	2,000円
シニア・学生会員	3,000円	—
ファミリー会員	8,000円	2,000円
助成会員	10,000円	—
特別助成会員	50,000円	—
終身会員	一括 80,000円	—
営利法人会員*	1口 50,000円	50,000円
非営利法人会員*	1口 10,000円	2,000円

\*年会費は一口以上

~あなたのご支援が環境市民を支えます~

♥ 寄付をする... 住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上、下記の振込先へお振り込みください。

会費・寄付のお振込み先 【郵便振替】口座番号: 01020-7-76578 加入者名: 環境市民

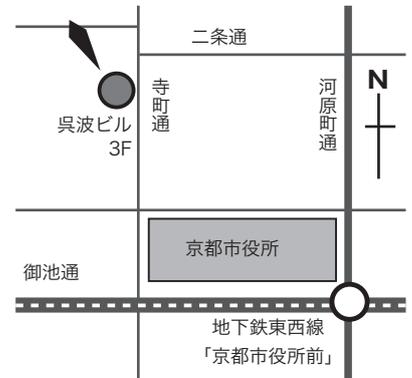
(発行) 特定非営利活動法人 環境市民 (代表) 牧本 育生 (発行人) 堀 孝弘  
 【TEL】 075-211-3521 【IP 電話】 050-3581-7492 【FAX】 075-211-3531  
 【E-mail】 [life@kankyoshimin.org](mailto:life@kankyoshimin.org) 【URL】 <http://www.kankyoshimin.org>  
 〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル吳波ビル 3 階 (月から金 午前 10:00 から午後 6:00)

### 環境市民 東海事務所

【TEL&FAX】 052-521-0095 【IP 電話】 050-3604-6182  
 【E-mail】 [tokai@kankyoshimin.org](mailto:tokai@kankyoshimin.org) 【URL】 <http://www.kankyoshimin.org/tokai/>  
 〒451-0062 名古屋市西区花の木 1-12-12 AOIビル 4 階

### 環境市民 滋賀事務所

【TEL】 077-522-5837 【E-mail】 [cefshiga@kankyoshimin.org](mailto:cefshiga@kankyoshimin.org)  
 〒520-0046 大津市長等 2 丁目 9-12 竺 文彦気付



## 環境市民

Citizens Environmental Foundation

21 世紀  
地球を、地域を、生活を、  
持続可能な豊かさに



この印刷物は風力発電による自然エネルギーを使用して大豆油インキで印刷しました。  
印刷: (有) 糺書房

本誌はメーカー側が古紙100%とする紙を使っていますが信頼性の確認がとれていないため、古紙配合率100%を示すR100マークははずしています。



本誌の無断複写・複製・転載を  
禁じます。

「環境市民」登録商標 第4809505号